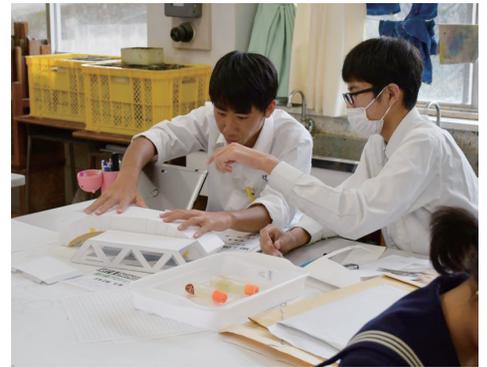
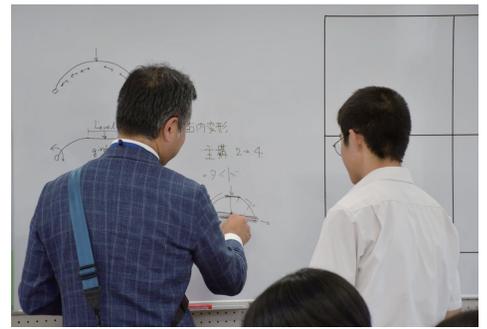


架け橋プロジェクト 授業風景（7、8校時）



「大人の話」は、地震工学、橋梁設計の専門家の松永先生。世界中を飛び回っているいろいろな国のインフラにも力を注がれています。生徒たちも志を高く持って学校生活を送ってほしいです。



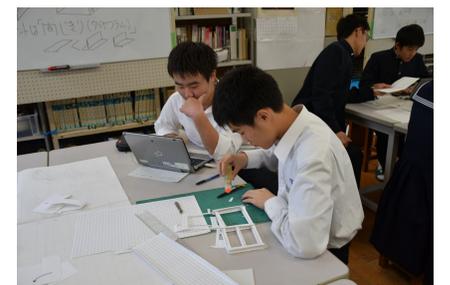
具体的な形が出来てくると、専門家からのアドバイスは効果的に働きます。どこが強くてどこが弱いのか。重さが加わるとどこに力が加かっていくのかなど、一つの立体に隠れている構造の妙を中学生ながら体感できる時間はとても貴重です。プレゼンの準備も内容が増して、生徒も真剣になっています。



【想像から形へ】

試行錯誤している班や载荷に向けて、再度見直しを求められる班。焦りと期待が行き交う微妙な空気が漂うのがこのあたり。想像したものが、徐々に形になっていきます。

各班、再度コンセプトを確認して、欄干やテラス、階段、展望所など、橋を利用する人々の営みにも視線を注ぎます。



【一人一人の資源を活かす】

このプロジェクトのポイントは、それぞれの個人の資質を活用して成し遂げる力です。工作が得意、文章力がある、パソコンが好き、メモが得意、丁寧な作業など一人一人の資源を活かすことにあります。本物の橋づくりも同じ。事務、設計、施行、行政など多くの職種が関わり合って成り立っています。このことをスタッフは、皆で共有し働き掛けを続けます。

